

本県の教育についての各関係者との対話（意見交換）

第3期教育大綱・第4期高知県教育振興基本計画の内容の実効性等を高めるため、
以下のような教育の当事者・関係者の方からご意見をいただく取組を実施。

教育の当事者・関係者

▶令和7年度実施

- ・ 高等学校・特別支援学校高等部生徒 「次世代総合教育会議」
- ・ 中堅教職員（教諭・養護教諭）
- ・ コミュニティ・スクール関係者〔小学校〕
- ・ コミュニティ・スクール関係者〔高等学校〕
- ・ 教育事務職員



高等学校・特別支援学校 高等部の生徒

令和7年度 次世代総合教育会議（令和7年7月25日開催）

県内の高校・特別支援学校高等部から委員として生徒6名に参加いただき、「次世代総合教育会議」を開催しました。

高校生の委員から「自分の未来・夢について～高知家の生徒一人一人の夢を実現するために理想的な学校・教育とは～」のテーマで発表いただき、委員同士や知事、県教育長、教育委員と意見交換を行いました。



窪川高等学校
羽屋戸 委員

- 私の将来の夢は、小学校の先生。緑が多く人が温かい窪川で働きたい。
- 私が思う高知県の教育課題は2つ。自分で考え行動する経験が少ない点と具体的に考える機会が少ないという点。そこで、自分で課題を設定して解決していく「プロジェクト課題」を増やしたり、職場体験など将来の仕事をイメージできる教育を広げてもらいたい。

A 小学校でとてもいい先生にも巡り合えた。そのような先生になって自分も子どもを助けたいと思ったのがきっかけ。

Q 先生になろうと思ったきっかけは？



- 私たちの夢を実現するために学校の授業や行事は必要だ。しかし、先生に相談できる時間が取れない現状がある。
- 将来の夢のため、アルバイトをしてみたいが校則で制限がある。
- 10年後の学校は、悩みを友だちや先生に話しやすい学校になったらいい。私たちの後輩が楽しく元気に挨拶できる、今のように先輩も後輩もみんながお互いを思いあえる、生活しやすい学校であってほしいと思う。

Q 働いて感じたやりがいとは？



A いろいろ作業をしているうちに、失敗やミスが起こるけど、それをそのまま放置するのではなく、自分でその後振り返りをして、次はどうしたらいいのかということを前向きに考えながら、次の仕事に立ち向かうことにやりがいを感じている。



日高特別支援学校高知みかづき分校
奥村 委員



日高特別支援学校高知みかづき分校
面内 委員

高等学校・特別支援学校高等部の生徒

令和7年度 次世代総合教育会議（令和7年7月25日開催）



伊野商業高等学校
藤本 委員

- 本来義務教育でない高校に義務感を感じて通っている生徒が多い。生徒一人一人が課題を見つけ、目標を少しずつ達成する授業を行えば、授業が魅力的になり、義務感ではなく自ら学びに参加するという生徒の意識改革につながる。
- 高校生自身も成長し、未来への可能性が広がっていくような教育、例えば高知県の地域課題の解決に、高校生が密接に関わっていくなどの学習が必要。
- 学校は、楽しい場所であり、自ら学校に行きたいから今日も行きたいと思える学校が、理想的な学校の姿と思っている。

- 高校生活はとても楽しいが、目の前のことに追われ、夢をじっくり考える時間が足りない。
- フィンランドやタイでは、アウトプットできる授業があり、自由時間も多。もう少し自由時間のある高校生活が送れるようなカリキュラムにしてほしい。
- 記述式の試験ばかりではなく、クラスメイトや先生とディスカッションをするような時間を多く設けてほしい。



土佐女子高等学校
前田 委員

Q フィンランドの教育で一番魅力的に感じたことは？



A 夏休みが2カ月あるので、自分の興味のあることにチャレンジする期間になり、自分の夢や将来につながりそうなものを探ることができる。



岡豊高等学校
山下 委員

- 芸術コースは生徒数が少なく、いい練習や作業につながらず、自己成長がしにくいと感じる。また個人で練習できる場所も少ないし、生の演奏や絵画に触れる機会もとても少ない。
- 県外の高校生と交流し、様々な表現と触れ合うことで、自分の価値観に変化が生まれたり、視野が広がると思う。また、生徒一人一人の可能性を引き出す教育、学校の中にとどまらず世界とつながる学び、知識だけではなく好きや関心が社会と結びつく環境が理想。

中堅教職員 (教諭、養護教諭)

(令和7年8月18日開催)

中堅の教諭、養護教諭5名に参加いただき、3つのテーマについて、日頃考えていることや実践していることなどについて、県教育長と意見交換を行いました。



子どもたちにどのような力を身に付けさせたいか

- **自己決定できる力が必要**。総合的な学習の時間に町をよくするためにどんなことができるかを考えている。
- 子どもに学習の方法やペースを任せるといった学習をしたところ、意欲的な姿を見せた。子どもにとって、自分が自ら選択したり、決定することなどは大切。
- 自ら一歩踏み出しにくい子どもがいる。いい塩梅、折り合いの付け方を身に付けさせたい。
- **自分を表現するため、相手のことを理解するため、コミュニケーション力が必要**。いろいろな経験をすることで好き嫌いが直接的にわかることがある。

【教育長コメント】

大変な面もあろうが、前向きに考え実践されていることに対して、尊敬し感謝している。若年教員に声をかけるのが管理職と中堅教員では反応が違うと思う。学校運営に中堅教員と管理職との関係性は重要。ワークもライフも楽しんでもらいたい。県教委としても皆さんが集中して仕事ができる環境を考えていく。

若年教職員への支援など、学校組織づくりに向けて心がけていることは

- **任せることを大切にしている**。細かく言わず、信じて任せている。
- **周りにいつでも話ができる状態、関係づくりはすごく大事**。話しやすい存在になれたらいいと思っている。
- わからないことを頼まれ、わからないままやって失敗した経験がある。若年教員には、**できるだけ具体的に伝えるようにしている**。
- **一人は無力ではなく微力であるからみんなを巻き込んでやろうと意識的にやっている**。変化に気づき、伝えるようにしている。
- 忙しい時期に、あえてバレーなどで交流の時間をとったら、結構好評。

地域(学校外)との連携をどのように考えているか

- 外の研修に積極的に行くことが大切。**そこで知り合った人との繋がりが活きる**。
- **リアルを学ぶという意味でも地域との連携は非常に重要**。地域学校協働本部事業の予算は大変大事。
- 若年教員より水泳に対する不安の声を聞く。**専門性の高い外部の方が入ってくるとありがたい**。
- 部活動に外部から人材が来てくれると、専門外の教員にとっても、人間関係の面でも子どもにとってもよいと思う。



コミュニティ・スクール関係者〔小中〕

いの町立伊野小学校（令和7年9月17日開催）

今年度初めて、コミュニティ・スクール関係者との対話を実施しました。学校運営協議会の取組による成果や変容や本県がすすめるキャリア教育とコミュニティ・スクールの連携について協議を行いました。

【参加者】民生委員、PTA会長、地域ボランティア、放課後学習支援員、学校長、教頭、地域コーディネーター、地域学校協働活動担当等



山間部の小さな学校にいたが、職業として校医と公務員と先生しか見たことがない子もいる。本物に少しでも触れるような都会的な体験をデジタル上でできたらと思う。色々な仕事を生で見る機会が多い方がいい。

以前、高校でキャリアの話をする機会があり、どんな職業を選ぶか、より、どのように暮らしたいか、を大事に考えてほしいと伝えた。職は手段であり、人生が様々に変わっていく中で選んだらいい。小学生からこういう考えを身につけてもらいたい。

この場で学校運営や教育に対するアプローチ等を教えてもらい、毎回深い学びになっている。先生方がここまで色々考えてやっていることを他の保護者にも周知したい。



大黒様の大祭では、子どもたちが舞を舞う。地域の人たちと一体となって行う大祭は、いの町の子どもでよかったと思えるきっかけになる。地域に根差した行事があることはいの町の強み。

将来、小学校の先生になりたいという高校生がいる。ところが、親族から小学校は大変だから中学か高校にしたらどうか、と言われていたという話を聞いた。小学校教諭のメリットややりがいなどを子ども以外にももっと発信していったらどうか。

いの町で子育てしたいと思い帰ってきた。地域性なのか、様々な人が気軽に話しかけてくれ、地域で子どもたちを見てもらっているという安心感がある。一度外へ出たからこそ、さらにわかる自然や人の温かさを感じている。

【教育長コメント】

キャリア教育が少し硬いイメージになってしまっているのかもしれない。職業的なものだけでなく、学習を通して郷土や地元を理解し、そして誇りや愛着をもって愛していく。小さい時からの様々な経験や人の温かさに触れることで、いつか大人になると帰ってきたいと思うようになる。そういったこともキャリア教育の大事なところ。



コミュニティ・スクール関係者〔高等〕

高知県立窪川高等学校（令和7年10月29日開催）

コミュニティ・スクール関係者との対話を実施しました。
学校運営協議会の取組による成果や課題と工夫や変容、地域と連携したキャリア教育について協議を行いました。

【参加者】四万十町教育長、窪川高等学校同窓会前会長、作業所管理者、PTA会長、地域住民、窪川中校長 等

学力を上げるために勉強するって難しいと思うんですけど、何か**目標を達成するために自分が努力をしないといけない、その過程に勉強があるということであれば、勉強を進んでするようになる**と思う。

生徒の学習意欲を何とか高めてもらいたい。**外国語の習得につながる交流事業**というのは広げていっていただきたい。

高校は、社会に1番近い人材育成の場として捉え、キャリアの分野で、**地域の産業とつながる機会があるカリキュラム**をつくっていただくような作戦を練っていただき、校長や地域とつながる学校運営協議会になっていただけたらありがたい。

文化祭で、生徒が地域の人と交流してやっているが、ぜひ**地域協働**ということでは、**もっと進めて**いただきたい。地域や地域の大人たちと触れ合って、**様々な伝統行事**などにも入ってほしい。

若い子が**地域の人たちとコミュニケーション**をとることによって、高校だけではなくて、**地域全体の活性化**にもつながり、共に盛り上がっていける。

県外から来られた方が、**四万十町の素晴らしい環境を地元の方は理解できてないのでは、と**話されていた。子どもは生まれた時からそれが当たり前で意識をしてない。**外部から言われると説得力がある**。ここ四万十町には、**お金じゃない何かがあるのか**と考えた。



【教育長コメント】

そこに住んでいなくても、心の中のふるさとを作っていくことが必要。そのためには、人との触れ合いが大切であり、本気で子どもと一緒に活動する大人の存在が重要。

自らの目標達成のためには、努力しなければならない。その過程に勉強があるということを生徒たちに伝えていきたい。

教育事務職員

〔令和7年12月25日開催〕



教育事務職員との対話を実施しました。
事務を司る専門職として学校運営への参画が期待されている教育事務職員の日々の業務の状況や、やりがいを感じる事などについて、幅広く意見交換を行いました。

日々の業務の状況（業務のやりがい、学校運営の課題 等）

- 教育事務職が学校運営に一番関わるのは、予算。カリキュラム変更や新規事業など、**予算面から事務職員が参画**することで、学校でより強い**チームワーク**が生まれていると感じる。
- 施設修繕や授業に使うための備品購入などの事務は、**学校環境や授業の改善に直接関与している**と実感でき、**手応え**を感じる。
- 地域や保護者の方からの電話は、事務職が最初に受けて管理職や教員につなぐことが多いが、自分が良くお話を聞いたことで、双方から「話しやすかった」とのお声をいただくことがあり、そうした瞬間にやりがいを感じる。
- 県教育委員会事務局など学校現場以外での勤務経験**は、教育行政や財政の仕組みをより深く理解する貴重な機会となり、**学校現場で再び勤務する際の広い視野に繋がっている**と実感している。
- 国が示した「学校と教師の業務の3分類」に、教育事務職員の名称が明記されたことで、**プレッシャー**を感じている。一方で、**提示された業務をどのように効率化や改善を図っていくのか**、という話もでてきている。

管理職や教育委員会に期待すること

- 話しやすく、相談に乗ってくれる**管理職の存在**が、働きやすさに繋がる。
- 管理職に恵まれ、事務職員の業務をよく把握してしてくれた。普段は行事など学校運営に参画し、やりがいを感じつつ、繁忙期などは事務仕事に専念させてもらえた。**業務への管理職の理解はすごく大事**。
- 市町村ごとに**サービス**が異なるため、容易ではないことは承知しているが、出勤簿や年次有給休暇簿のアナログ管理が大変なので**デジタル化（DX）**を強くお願いしたい。



【教育長コメント】

事務職員は教員が気づかないような働き方改革の視点や、新しいアイデア、あるいは「継続すべきこと」を教えてくれる頼もしい存在であり、今後さらにその役割に期待が高まっている。「チーム学校」の要として皆さんの活躍を期待するとともに、その活躍を後押しするために私たちにできることを考えていきたい。